

# 新年のご挨拶

一般財団法人 石油開発情報センター

会長 藤田 文 萌

明けましておめでとうございます。平成 28 年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

旧年中、賛助会員はじめ関係者の皆様から賜りました当センターへのご支援、ご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

昨年の我が国経済は、3 年目に入ったいわゆるアベノミクスの効果により円安と株高が続ぎ、景気回復の実感が乏しいとの声もありますが、徐々に回復の兆しが見え始めたと思っております。他方、世界をみても、一昨年から油価は供給過剰と中国、新興国の景気減速などにより低迷を続け、産油国の財政、石油関連企業の業績や活動に影響を与え始めている状況と認識しております。

しかしながら、国民生活や産業活動に欠かせないエネルギー資源の太宗を海外からの輸入に依存し、東日本大震災以降一次エネルギーにおける化石燃料の消費が増大している我が国にとって、石油・天然ガス資源の安定供給の確保は極めて重要であることに変わりはなく。今後も、権益確保や供給源の多角化に官民挙げて取り組んでいかなければならないものと考えております。

当センターは、今年 3 月末をもって一般財団法人へ移行してから 5 年目が終了します。これまでの 5 年間に振り返ってみますと、当センターは、

収益構造の変化に伴い、様々なコスト削減策の実施と収入拡大の努力による収益改善に努めてまいりましたが、毎年度赤字決算という厳しい財務状



況が続きました。こうした中で、一部事業の規模縮小は避けられなかったものの、一般財団法人移行時からの事業である「会員への情報提供事業」、「調査研究事業」、「産油・産ガス国開発支援協力事業」、「産油・産ガス国開発支援協力事業の範疇で ICEP 財源を活用して実施する自主事業」、の 4 事業を柱に活動を展開してまいりました。

今後も財務体質の改善・強化に向けて努力するとともに、引き続き 4 事業の実施を通じて、石油・天然ガス資源の安定供給の確保を実現するため、官民による石油・天然ガスの権益確保や供給源の多角化に向けた取組みに、当センターも微力ながら精一杯役割を果たしていきたいと考えております。

最後に、当センターに対する関係者の皆様の倍旧のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様にとりまして幸多き一年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。